

指針第1号様式

4 温室効果ガスの排出の状況

基準年度（令和6年度）の温室効果ガス排出の状況

①エネルギー起源二酸化炭素の排出量		2,852	t-CO ₂
①を （温室除く 二酸化炭素 換算） 排出量	②非エネルギー起源二酸化炭素		t-CO ₂
	③メタン		t-CO ₂
	④一酸化二窒素		t-CO ₂
	⑤ハイドロフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑥パーフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑦六ふっ化硫黄		t-CO ₂
	⑧三ふっ化窒素		t-CO ₂
温室効果ガス総排出量（①～⑧合計）		2,852	t-CO ₂

5 温室効果ガス排出量の抑制に係る目標

(1) 温室効果ガス排出量の抑制目標

温室効果ガスの抑制の目標設定方法	原単位排出量
------------------	--------

項目	基準年度 令和6年度 排出量（実績）		目標年度 目標排出量		令和9年度 目標削減率	
	温室効果ガス 総排出量		t-CO ₂		t-CO ₂	

項目	基準年度 令和6年度 排出量（実績）		目標年度 目標排出量		令和9年度 目標削減率	
	原単位当りの 排出量	1.436	t-CO ₂ / t	1.407	t-CO ₂ / t	2.0

(2) 目標設定の考え方

基準年度比で目標年度処理量は横ばい傾向と想定、温室効果ガス総排出量も横ばいとする。
したがって下記にて目標設定、削減を図る。

- ・【分母】原単位あたりの排出量を抽出、効率的な生産活動取組
- ・【分子】上記生産設備への省エネルギー化アプローチによる温室効果ガス排出量低減

備考1 温室効果ガスの排出の状況のうち、エネルギー起源二酸化炭素を除く温室効果ガスの排出量については、温室効果ガスの種類ごとに3,000トン以上の場合に限り計上してください。

備考2 温室効果ガス総排出量とは、エネルギー起源二酸化炭素の排出量と、種類ごとに3,000トン以上の温室効果ガスの排出量の合算をいいます。

備考3 原単位当りの排出量とは、事業活動の特性を的確に示すものとして事業者自らが選択する工場等の床面積、製品の出荷量その他の指標になる単位量当たりの温室効果ガス排出量をいいます。

6 温室効果ガスの排出の抑制等に係る措置

(1) 自らの事業活動に伴い排出される温室効果ガスの抑制に係る措置

取組の区分	具体的な取組の内容	取組の目標
省エネルギー	フロン使用機器のノンフロン化及び省エネルギー化推進	制御盤内冷却用クーラーのノンフロン化及び省エネルギー化〔電力〕
省エネルギー	熱処理炉放熱防止による使用電力 ※炉体外側に断熱材保温、放熱防止 ⇒▲29,000kw/年	使用電力量低減による省エネルギー化
省エネルギー	1処理バッチの充填率向上による使用電力低減	使用電力量低減による省エネルギー化

指針第1号様式

(2) 非化石エネルギーへの転換に関する措置

ア 非化石電気に関する目標

指標	目標 (2030年度)
使用電気全体に占める 非化石電気の比率	未定 %

イ 計画期間における非化石エネルギーの利用

【上記に関して】
社内目標値が定まってないため
本年提出分は『未定』とさせていただきます。

(3) 環境価値 (クレジット等) の活用

(4) その他の地球温暖化対策に係る措置

(5) 「環境保全の日」等に特に推進すべき取組